

# イースター礼拝（復活日）

2023年4月9日(日) 午前10時30分

司式 牧師 姜 徑米

前 奏

招 詞 詩編 118編23～25節

讃美歌 148 (1, 2)

主の祈り

聖 書

ヨブ記 19章21～27節 (旧799)

コリントの信徒への手紙一15章1～11節  
(新320)

祈 禱

讃美歌 154 (1, 3)

説 教 「復活を受け継いで」

牧師 高橋和人

祈 禱

洗 礼 式 (日本基督教団信仰告白)

讃美歌 199 (1, 4)

聖 餐 式

献 金

頌 栄 540

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

## 4月の祈り

主の十字架の死と復活によってもたらされた、罪からの救いに与っている恵みを再確認し、信仰にふさわしく、祈りと忍耐と希望を持って歩むことができるように。

戦火と天災によって困難と悲しみを負っている人々に、主のみ手が伸べられ、癒しと慰めが与えられるように。

教会と幼稚園の新年度の歩みが祝され、力づけられるように。

## 今日の祈り

洗礼式が祝され、イースターの恵みと喜びを教会全体で分かち合うことができるように。罪赦され、死に対する勝利が与えられて生きる日々を味わい感謝することができるように。

幼稚園の働きが祝され、働き人が守られ、良い実を結ぶことができるように。

教会に足を運ぶことができないでいる人々、音声配信によって礼拝を守っている人々にも、主に連なる恵みが与えられるように。

「復活を受け継いで」 高橋和人

コリントの信徒への手紙一15:1～11

福音こそ聖書の核心。福音は教会の語る宣教の内容であり、救いの内容である。福音は主イエス・キリストの復活によってもたらされた。福音は告げ知らされ、語られ、聞かれなければならない。

福音は人から人へと伝えられ、引き継がれる。それは必ず誰かから受けている。その人を生かした言葉として受け止められ、受け取った者の生活のよりどころとなる。このつながりは、信仰による命のつ

ながりになる。

それには福音がしっかり身に付いた生活の言葉になっている必要がある。そうでなければ信仰と生活の核心をなくしてしまい、あやふやなものになる。

教会の危機はそこにある。「死者の復活などない」は、主イエスとの出会いと交わりを失っている。それは「この世の生活でキリストに望みをかけているだけ」になる。この世をどう生きるか、この世の人生がすべてになる。それは、キリストに望みをかけていても、この世の可能性の中の希望でしかない。キリストの望みを現世的なものにしてしまうならば、それはむなししい。

福音は、聖書に書いてある通りのことである。聖書は歴史に現れた神の意思を示す。十字架に死なれた主イエスが復活せられ、その方は弟子たちに現れ、主を慕う人々に現れ、パウロ自身にも現れた。そこには神の御心と計画がある。

主の復活を理解するには、人の側からたどることができない。神が主体だからだ。独り子を遣わされた神の愛の一連の出来事の上に主の復活がある。

復活の主に出会う信仰は体験によることではなく、備えられた恵みを受け入れることによる。

人は信仰によって、復活の主に触れる。そこに福音の水源からの流れがある。主は生きた命の水の尽きない流れを生み出してきた。教会が受けついできたのはこの脈々とした流れになる。

この主イエスの生きた姿が宣教によって今も実現している。それが教会の姿である。救われたものが集い、加えられ、生活し、生涯を全うする。福音が生活になっているところである。宣べ伝えられ、信じる。それが共にある神の恵みである。